

表現を広げ、深めて踊る生徒を育てるダンスの学習指導 —『内省』する活動を導く学習展開の工夫を通して—

福岡県立八幡中央高等学校 柴崎 雄一郎

I 主題設定の理由

1 ダンス領域の特性および高等学校における現状から

ダンスは、イメージをとらえた表現や踊りによる交流を通して、仲間とのコミュニケーションを豊かにすることを重視して、仲間と共に感じを込めて踊ったり、イメージをとらえて自己を表現したりすることを楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

中でも、創作ダンスの学習では、自己やグループで、動きの中に込めたいイメージや思いをじっくり見つめ返すことで、動きをより一層工夫し、見る人に伝わる表現にすることができる。この見つめ返す活動を学習展開に効果的に仕組むことで、動きとともにイメージや思いを広げ、深めることができると考えた。

高等学校におけるダンスの学習は、学校の履修状況によっては、一部の教員に委ねられてきた経緯やその内容に偏りがあったり、指導の工夫が十分に図られていなかったりする例も見受けられる。このことは、特に創作ダンスの学習が、生徒の自由な発想や動きを導き出す学習が中心になり、指導者の経験や力量が求められるなどの理由から敬遠されがちな領域であったことは否めない。

以上のことから、創作ダンスの学習において、自己の思いや考えを振り返る活動を工夫することで、テーマにふさわしいイメージをとらえて表現できる「技能」とともに、ダンスに主体的に取り組む「態度」を養い、課題解決の方法を理解し、グループや自己の課題に応じた運動を考える「知識、思考力・判断力」を高めることにつながり、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する能力を養うことができると考え、本主題を設定した。

2 高校生期の実態から

高校生期は、物事に対する思考が深まるとともに、知識も広がり、心情も豊かになる時期である。また、コミュニケーション能力や言語に関する能力も高まりを見せ、自己の思いや感情を深く考えて仲間を尊重しながら発言したり、相手の気持ちを受け止めたりして配慮することができるようになる。

また、創作ダンスの学習においては、より良い動きを求めて表現の仕方を工夫し、自己やグループの個性を生かした表現を探ろうとする時期でもある。

しかし、中には即興的な動きはできても、工夫した動きや感情を込めて表現する方法がわからないという生徒も見受けられる。これは、教師が生徒に創作の手順や動きの発展の方法などを学習させる際に、生徒の感情を込めた自由な表現を上手く引き出せていないことが一因であると考えられる。

このことは、イメージを振り返って表現を広げたり、見直したりして表現を深める活動の機会が少なかったことを示している。

そこで、イメージを言葉に表し、自己の内面にある感情や思いを導く『内省』する活動を中心とした言語活動を生かした授業展開をすれば、生徒は自己の思いを込めた表現をすることが可能になり、自己を解放した満足感や喜びを味わうこととなる。そして、互いの表現の違いやよさを客観的に評価し伝え合うようになり、新たな課題解決に向けた学習を発見することにつながると考えた。

以上のことから、『内省』する活動を中心とした言語活動を創作ダンスの学習に生かせば、自己の自由な表現につながり、自らの動きを再構成するとともに仲間の違いやよさを発見する。その結果、仲間と共に動きを高め合う生徒を育てることができると考え、本主題を設定した。

II 主題及び副主題の意味

1 「表現を広げ、深めて踊る生徒」とは

イメージや思いを動きに変えることを繰り返しながら、自己の感情を加えることで深まった表現ができる生徒のことである。

(1) 「イメージや思いを動きに変える」について

イメージとは、自己の経験から頭の中で直感的に感じて思い浮かぶ像のことである。思いとは、自己の考えや願いのことである。つまり、イメージや思いを動きに変えるとは、「声にならない叫び」「ただ今、猛勉強中」など多様な題材から直感的に感じて思い浮かぶことや、自己の考えや願いを人に伝わるように動きに変えて表すことである。

(2) 「動きに変えることを繰り返す」について

動きに変えることを繰り返すとは、テーマや題材にふさわしい動きを、見る人に伝わりやすいように、イメージを端的にとらえて動きに表し、色々な題材で繰り返すことである。本研究では、イメージや思いを主に言葉で表し、動きに変えることを繰り返しながら、多様な表現が身に付くことを、表現の広がりと考える。

(3) 「自己の感情を加える」について

自己の感情とは、テーマや題材に対して生じる「喜怒哀楽」などの自己の気持ちのことである。

感情を加えるとは、テーマに沿ったイメージや思いを仲間とともに工夫し、動きの中に表したい「嬉しい」、「悲しい」、「楽しい」、「さびしい」などといった感じを込めて表現することである。このことで、生徒は、自己の感情を仲間と伝え合い、互いに共感し高め合いながら思いが見る人に伝わりやすい表現にしようとする。つまり、表現の広がりとして自己の気持ちを重ねあわせた動きを繰り返し行い、より深まった表現になると考える。

(4) 「深まった表現ができる」について

深まった表現とは、感情を込めた豊かな表情で、指先や視線まで意識した、全身を大きく使った表現である。このことで、生徒は、イメージや思いを素直に見つめ返し、自己やグループに合った動き方や発展の方法を選択して表わすようになる。そして、動きを振り返ることで、自己を解放した表現に変えることにつながり、イメージや思いを見る人に伝えることができる。

そこで、本研究では、目指す生徒の姿を【資料1】のように示す。

| 資質や能力 | 目指す生徒像 |
|---------------|--|
| 技能 | テーマにふさわしいイメージをとらえ、個や群で、対極の動きや空間の使い方に変化をつけて表し、イメージを一層深めて表現することができる。 |
| 態度 | ダンスに主体的に取り組み、互いに共感しながら、合意形成に貢献することができる。 |
| 知識 思考力・判断力 | 課題解決の方法を理解するとともに、発展の方法を選択して、グループや自己の課題に応じた動きを考え、交流や発表を工夫することができる。 |

【資料1：目指す生徒像】

2 「『内省』する活動を導く学習展開の工夫」とは

動きを創り出す過程において、新たな動きに変えていく活動と自己を内面から振り返る言語活動の仕組み方を工夫することである。

(1) 「動きを創り出す過程」について

動きを創り出す過程とは、一つの「題材」において2時間をひとくくりにした授業を繰り返す単元構成を実施することである。創作ダンスの学習では、課題に適した練習に繰り返し取り組み、互いに動きを見せ合う。さらに動きや表現を高める練習方法を見直すことでその課題を解決し、新たな目標を設定するなどの課題解決のための道筋があることを理解できるようになると考える。このことで、イメージを強調した作品にまとめて表現することができるようになる。

(2) 「新たな動きに変えていく活動」について

新たな動きに変えていく活動とは、「表現する学習内容」を繰り返し行い、表現する動きの量を広げたり動きの質を高めたりすることである。

そこで、本研究では創作ダンスの学習をそれぞれの「題材」に沿った「導入—展開—終末」の3つの段階に分け、導入の段階では、動きを広げるための教材を使った「**基本**」の段階を行い、展開の段階では、仲間との関わり方を考えた「**共感**」の段階を行い、終末の段階では、交流や発表を踏まえた「**発展**」の段階を行う。また、活動構成を3つの段階にすることで、それぞれの段階において、表現する技能の習得を目指し、表現の高まりとともに深まりある表現に変わっていく過程を【資料2】にまとめた。

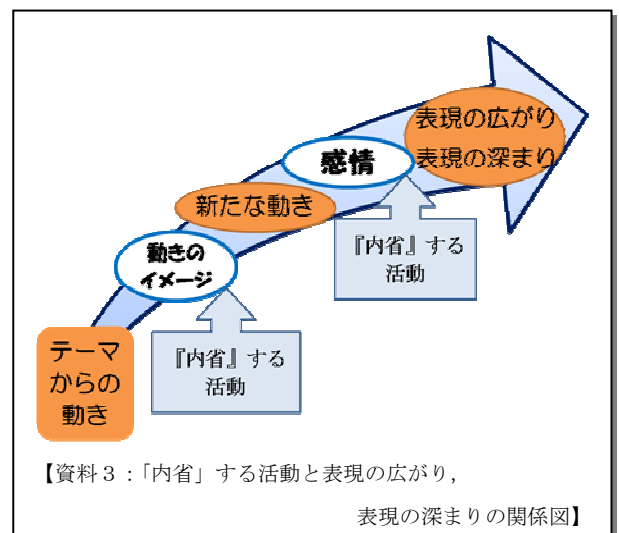


(3) 「自己を内面から振り返る」について

自己を内面から振り返るとは、動きを創り出す学習活動後に動きから感じたことを主に言葉で膨らませ、自己の内面と向き合い振り返って表すことである。しかし、テーマに沿ったイメージを即興的に動きにすることができても、ダンスを苦手としている生徒の動きはぎこちない。そこで、動きのイメージを主に言葉で振り返り確認すれば、伝えたい思いを表現する学習に役立ち、新たな動きにすることが可能になってくる。

また、動きから受け取るイメージについて、話し合いや振り返りの場面を作ることによって、他者との動きの比較や他者からの評価によって「どのように動いていたか」「どのような表現だったか」という、課題解決に向けた積極的な学習の取り組みが期待できる。

このように、それぞれの段階から受け取るイメージを「動きから受け取るイメージ」とし、動きから受け取るイメージを主に言葉で振り返ることを「**内省**」する活動ととらえ位置づける。【資料3】また、学習展開の過程で、「**内省**」する活動を仕組めば、テーマや題材に合ったイメージや思いを広げ、深めて踊る生徒を育てるための課題を持った学習を実施することが可能になり、「**内省**」する活動が生かされるとともに、表現を高めるための主体的な取り組みができると考えた。



Ⅲ 研究の目標

創作ダンスの学習において、表現を広げ、深めて踊る生徒を育てるために『内省』する活動を導く学習展開の工夫の在り方を究明する。

Ⅳ 研究の仮説

創作ダンスの動きを創り出す学習過程において、以下の工夫を行い『内省』する活動を導けば、表現を広げ、深めて踊る生徒が育つであろう。

- 1 2時間ひとくくりの単元構成の工夫
- 2 3段階の活動構成の工夫
 - ・「基本」の段階、「共感」の段階、「発展」の段階
- 3 『内省』する活動の具体的支援
 - ・ダンスメイクボード (DMボード)、イメージカード、ショートポエム、学習ノート、VTR

Ⅴ 研究の具体的構想

1 2時間ひとくくりの単元構成の工夫

2時間ひとくくりの単元構成の工夫とは、表現の幅を広げるため2時間ひとくくりの授業を繰り返す単元構成を設定することである。このことで、テーマや題材にふさわしい動きの量を増やし、見る人にイメージや思いが伝わるような深めた表現にするために、「高める」Ⅰの段階では、「ひと流れの動き」、「高める」Ⅱの段階では、「緩急強弱の動き」、「高める」Ⅲの段階では、「群（集団）の動き」を設定して創作をさせる。そこで、以下のような単元構成を示した。【資料4】

| 配時 | 1 | 2・3 | 4・5 | 6・7 | 8 |
|--------|-----------|----------------|------------|---------------|------|
| 学習の進め方 | 1時間 | 各題材に共通した2時間の展開 | | | 1時間 |
| 段階 | であう | 高めるⅠ | 高めるⅡ | 高めるⅢ | いかす |
| 動きのねらい | 即興的な動き | ひと流れの動きを引き | 緩急強弱の動きを引き | 群（集団）の動きを引き出す | 踊り込み |
| テーマ | オリエンテーション | 「秋の風情」 | 「交差点」 | 「人間関係」 | 発表会 |
| 教具 | | ペーパー | ゴム | 新聞紙 | |

【資料4：2時間ひとくくりの単元構成】

2 3段階の活動構成の工夫

3段階の活動構成の工夫とは、1つのテーマにつき2時間の授業を行う中で、活動構成を「基本」の段階、「共感」の段階、「発展」の段階に分け、生徒の表現を引き出したり、広げたり、深めたりするための活動を以下のように仕組むことで表現を高める。【資料5】

| 3段階の活動構成 | 段階 | | | | | | | |
|----------|----------------|--|---------|----|----|---|-----------------------|--|
| | 「基本」 | 配時 | 2 | 教材 | 内容 | A4用紙を手のひらにのせ、動かしたり、渡し合ったりする。紙との一体感が味わえ、ひと流れの動きを引き出す工夫をする。 | | |
| | | | 4 | | | | 幅1cm、長さ50cmのゴムを使って動く。 | ゴムを手や足で、伸ばしたり、縮めたり、引っ張り合ったり、止まったりする。ゴムとの一体感を味わえ、緩急強弱の動きを引き出す工夫をする。 |
| | | | 6 | | | | 新聞紙を使って動く。 | 生徒が新聞紙をたたんだり、丸めたり、投げたりする。自分を他のものに見立てることが味わえ、群を生かす動きを引き出す工夫をする。 |
| 「共感」 | 動きの要素 | 「時間」・猛スピード、スローモーションで動き、緩急強弱をつけて繰り返して変化をつけて表現する。「力」・ねじる、まわる、視線を決めるなど変化や連続のひとながれの動きにつなぎを入れて表現する。「空間」・タイミングをずらした動き、全体で統一した動き、密集一分散など変化をつけて表現する。 | | | | | | |
| 「発展」 | 動きの要素（時間・力・空間） | | 感情（気持ち） | | | | | |

【資料5：3段階の活動構成】

3 『内省』する活動の具体的支援

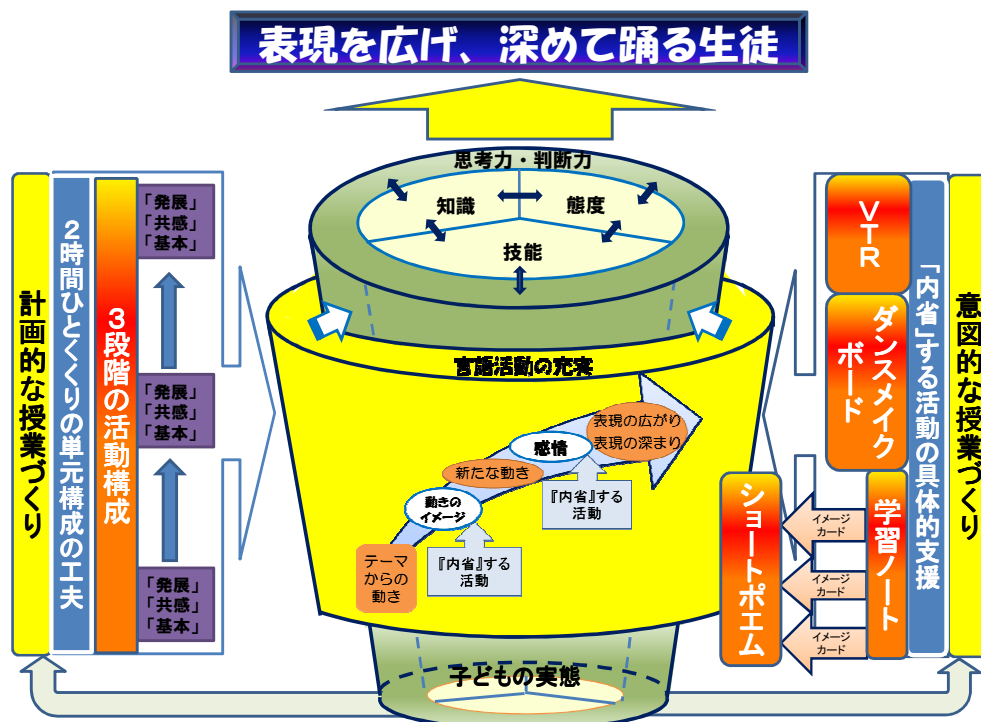
「内省」する活動の具体的支援とは、動きから受け取るイメージを「イメージカード」、「ショートポエム」、「学習ノート」に記述し、イメージを主に言葉で表す活動を行うことである。また、「ダンスメイクボード（DMボード）」を壁に貼り、学習の記録や見返すことで仲間と共に活動できるようにした。このような、言語を動きにして表したり、動きを言語にしたりする活動を創作の過程で工夫して行えば、表現を高めることが可能になる。また、学習の終わりには、表現したことのイメージや思いを表面化することができる「ショートポエム」や学習の振り返りを「学習ノート」に記述することで、学習をまとめることが可能になり、「ショートポエム」を読み返し、「タイトル」をイメージした前時の学習を振り返ることができる。

さらに、ダンスメイクボード（DMボード）やVTRで、動きを工夫させるために感情を書き入れたり、時間・力・空間の視点で映像をみたりすることで、踊り込みの活動にいかされ、生徒は表したいイメージや思いを自己やグループの表現の中に取り入れていくようになり、主体的な学習活動につながる。このことから、見る人に伝わるような表現にする際に動きの要素と気持ちを加え、さらに深めた表現ができるようになる。【資料6】

| 手立て | 目的 | 内容 | どのようなものか |
|------------------|--|---|----------------|
| ダンスメイクボード（DMボード） | ・動きの振り返りや即興的な表現ができるようにするため。 | ・毎時間のグループでの学習を記録する。 ・動き（3つの要素）の工夫を記述する ・記入した「タイトル」で、表現する。 ・記入したイメージカードを貼る。 | ・縦、横1m程度の模造紙 |
| イメージカード | ・動きから受け取るイメージを動きの要素から分類し、即興的な表現にしやすいようにするため。 | ・テーマから思いつくイメージや動きのイメージを言語化し、表面化できるようにする。 | ・付箋紙 |
| ショートポエム | ・動きから受け取るイメージを言語化し、自己の感情を込めた表現にしやすいようにするため。 | ・表したいイメージを言語化し、自己の感情を込めた短い詩（ショートポエム）にする。 | ・学習ノートの中に別途記入欄 |
| 学習ノート | ・学習したことの感想を記入するため。 | ・毎時間の学習を振り返って、記入し感想を書く。 | ・A4の紙 |
| VTR | ・より深めた表現にするため。 | ・グループの表現を振り返ってしながら、動きの再構成や工夫を話し合わせる。 | ・手持ちビデオ |

【資料6：「内省」する活動の具体的支援】

4 研究構想図



5 仮説検証の方途

| 領域 | 段階 | | 具体像 | 手立て | 実証方法 | 評価の視点 |
|-------|-------------|---------------------------|---|--|--|--|
| 創作ダンス | 事前調査 | | | | ①診断的授業評価 ②仲間アンケート ③創作ダンスビデオ視聴 | ア ダンスに興味、関心があるか。 イ これまでの他領域での活動から生徒相互の信頼関係ができてきているか。 |
| | であ う | 技能 | ア 表したいイメージを即興的に表現できている。 | ・3段階の活動構成の工夫（「基本」の段階） | ①様相観察 ②ビデオ分析 ③学習ノートの感想、記述分析 ④形成的授業評価 | ア 表したいイメージを即興的に表現できているか。 |
| | | 態度 | イ 仲間と自由な表現を認め合い、ダンス学習に主体的に取り組むことができる。 | ・3段階の活動構成の工夫（「基本」の段階） | | イ 仲間と自由な表現を認め合い、ダンス学習に主体的に取り組むことができているか。 |
| | | 知識 ----- 思考力 判断力 | ウ 表現を高めるために表したいイメージを振り返り言葉で表すことができる。 | ・DMボード ・イメージカード ・DMボード ・学習ノート | | ウ イメージを学習ノートやDMボードを活用しながら動きを振り返り、イメージを言葉で表すことができているか。 |
| | 高 め る | 技能 | ア 題材から受け取るイメージを端的にとらえ、多様な表現の仕方を工夫し、表したいイメージを表現できる。 | ・2時間ひとくくりとした単元構成 ・3段階の活動構成の工夫 | ①様相観察 ②ビデオ分析 ③学習ノートの感想、記述分析 ④形成的授業評価 | ア 題材から受け取るイメージを端的にとらえ、多様な表現の仕方を工夫し、表したいイメージを表現できているか。 |
| | | 態度 | イ グループで表現のよさや違いを認め合い、ダンス学習に主体的に取り組むことができる。 | ・2時間ひとくくりとした単元構成 ・3段階の活動構成の工夫 | | イ グループで表現のよさや違いを認め合い、ダンス学習に主体的に取り組むことができているか。 |
| | | 知識 ----- 思考力 判断力 | ウ 題材のイメージをイメージカードに言葉で表し、グループに合った表現の仕方を考え、表したい感じや心情をショートポエムにすることができる。 | ・DMボード ・イメージカード ・ショートポエム ・学習ノート ・VTR | | ウ 題材のイメージを言葉で表し、グループに合った表現の仕方を考え、表したい感じをショートポエムにすることで、自己の心情を深く考えて表すことができているか。 |
| | い か す | 技能 | ア 表したいテーマにふさわしいイメージを強調した作品にまとめて表現することができる。 | ・2時間ひとくくりとした単元構成 ・3段階の活動構成の工夫 | ①様相観察 ②ビデオ分析 ③学習ノートの感想、記述分析 ④形成的授業評価 | ア 表したい「タイトル」にふさわしいイメージで、イメージを強調した作品にまとめて表現することができるか。 |
| | | 態度 | イ 発表会を通して、表現を高め合うために合意形成に貢献でき、互いの違いやよさを賞賛できる。 | ・2時間ひとくくりとした単元構成 ・3段階の活動構成の工夫 | | イ 発表会を通して、表現を高め合うために合意形成に貢献でき、互いの違いやよさを賞賛できているか。 |
| | | 知識 ----- 思考力 判断力 | ウ 発表の仕方を理解し、みる人に伝わりやすいようにテーマに沿った表現の仕方を工夫し、ショートポエムで自己の心情や思いを表わすことができる。 | ・DMボード ・イメージカード ・ショートポエム ・学習ノート ・VTR | | ウ 発表の仕方を理解し、みる人に伝わりやすいような表現の仕方できているか。 |
| | 学習後の事後調査 | | | | ①ビデオ分析 ②学習意欲調査 ③総括的授業評価 ④ダンスアンケート結果 ⑤事後の感想記述分析 | ・事前調査より体育学習の興味・関心が高まっているか。 ・事前調査より体育学習に関して目的や目標を持って取り組むことができるようになってきているか。 ・事前調査より創作ダンスのよさを感じているか。 ・事前調査より感想や表現に変容が現れているか。 |

VI 研究の実際と考察

実証単元 平成 22 年 10 月 17 日(木)～10 月 29 日(金)(全 8 時間)

福岡県立八幡中央高等学校 普通科第 2 学年 5, 6 組女子 54 名 於 体育館

単元名「ダンス (創作ダンス)」

1 事前調査

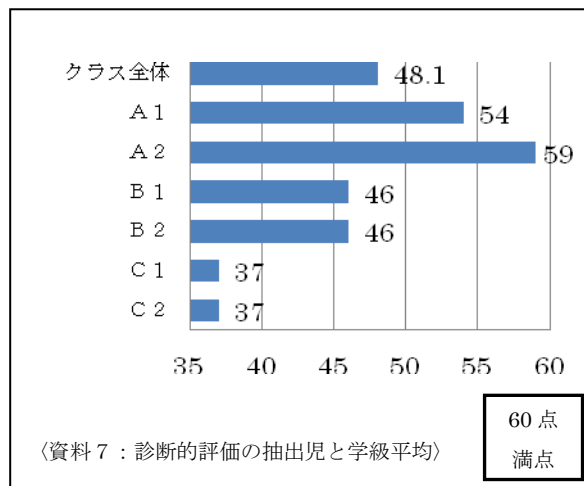
(1) 診断的授業評価

生徒の体育授業についての意識を調査するために、授業評価尺度 (高橋, 岡澤, 高田ら 2000) を用いた診断的授業評価を行った。

診断的授業評価では、クラス全体の総合評価の平均点 48.1 点【資料 7】で、高等学校段階の診断基準“0”

(48.55～41.56 点) 内に位置しており、本クラスの体育の学習に対する意識は、標準的であることがわかった。

また、クラス全体で、項目ごとに分析したところ、授業を行う上での規範意識という面に関しては、高い意識を持っている一方、どうしたら運動がうまくできるかを考えたりすることや運動に対する自信という面においての意識が低かった。



(2) ダンス学習に関する意識調査とダンスフェスティバル (2000) を視聴した感想

ダンス学習に関する独自の事前意識調査を行い、中学校までの「ダンス」の学習経験を調査した結果、経験している生徒が 33 名、経験していない生徒が 19 名で、その中で「創作ダンス」を経験した生徒は 2 名だけだった。次に、本校では 1 年次に「現代的なリズムのダンス」の学習を行っているが、その学習を振り返った感想では、約 6 割の生徒が「みんながひとつになって感動した」、「発表をみてきれいだった」と学習の成果を答えた。しかし、「踊りを覚えるのが難しい」など上手く動けなかったことや思い通りに踊ることができなかったことなどの課題を示した。また、創作ダンスの大会でもあるダンスフェスティバル (2000) を視聴させ、その感想をみると、40 名の生徒は「動きが大きくてすごい」や「恥ずかしがらずやっていてすごい」と踊ることに対して興味を持って肯定的な感想を述べているが、反対に「自分には向いてない」や「恥ずかしいからしたくない」と踊ることに対して消極的な生徒が 12 名もいた。このことは、創作ダンスの学習経験がない生徒が多く、学習に対する不安感や自信のなさ、動きのイメージがわからないことが要因と考える。

(3) ダンスの実態調査

これまでの生徒のダンス学習の実態を確認するため、教師が提示した即興的な動きをペアで模倣する活動を行った。仲間と共に楽しんで参加したものの、イメージを考えた動きにはならなかった。

以上のような調査結果をもとに、抽出生徒 A 1・A 2 (上位) B 1・B 2 (中位) C 1・C 2 (下位) を決定し、次のような生徒であることがわかった。

| 抽出生徒 | 診断的授業評価 | 総合 60 点 | 創作ダンスに関する意識調査 | ビデオを視聴した感想 | ダンスの学習を振り返っての感想 |
|------|--------------------|---------|---------------------------|--------------------------|-------------------------|
| A 1 | 診断基準+ クラス平均より高い | 54 | ダンス学習に対し、積極的に取り組もうとしている。 | いろいろな表現がすごいと思った。 | みんなと一つになれた。 |
| A 2 | 診断基準+ クラス平均より高い | 59 | ダンス学習に対し、積極的に取り組もうとしている。 | みんな同じ表情で、心が一つになっている気がした。 | 友達と教え合いながら踊りができるようになった。 |
| B 1 | 診断基準 0 ほぼクラス平均 | 46 | ダンス学習に対し、積極的に取り組もうとしている。 | いろいろな感情がわかってすごい。 | 達成感はなかったけど楽しかった。 |
| B 2 | 診断基準 0 ほぼクラス平均 | 46 | ダンス学習に対して、積極的に取り組もうとしている。 | 動きを大きく表現してきれいだった。 | 上手にできるようになってすごくうれしかった。 |
| C 1 | 診断基準- クラス平均より低い | 37 | ダンス学習に対し、非常に消極的である。 | 踊っている人の表情や表現力がすごい。 | ダンス経験がなく、受けてないのでわからない。 |
| C 2 | 診断基準- クラス平均より低い | 37 | ダンス学習に対し、消極的である。 | 動きがそろっているところがある。 | ダンス経験がなく、受けていない。 |

2 「であう」段階(第1時)

(1) 目指す生徒像

ア 表したいイメージを即興的に表現できる。(技能)

イ 仲間と自由な表現を認め合い、ダンス学習に主体的に取り組むことができる。(態度)

ウ 仲間との交流の場面で互いの違いやよさを言葉や動きで表すことができる。

(知識、思考力・判断力)

(2) 手立て

◇ 3段階の活動構成の工夫

「基本」の段階

◇ 「内省」する活動の具体的支援

・学習ノート

(3) 授業展開

「であう」段階では、学習の見通しを持たせるために学習のねらいや単元の流れ、学習の進め方を説明した。

また、仲間と関わり合いながらからだと心をほぐすために、「パートナーストレッチ」【写真1】を行った。「基本」の段階では、教師や仲間の動きを模倣し、仲間の動きに対応して動く「東西南北」

【写真2】などの即興的な動きを引き出す活動を体験させた。このとき、生徒の多様な動きを互いに感じさせながら「からだ全体を使って動こう。」と生徒への言葉かけを行った。さらに、表したいイメージを即興的に自分の動きに変えるために、学習ノートに「基本」の段階で表現した動きから受ける自分のイメージを記述させた。このことで、自己の内面を見つめる「内省」する活動の具体的支援を行い、イメージを動きにしやすくした。

(4) 考察

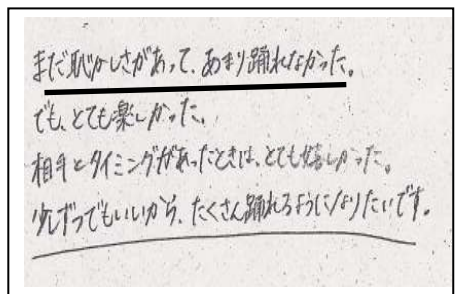
「であう」段階では、3段階の活動構成の「基本」の段階に「パートナーストレッチ」や「東西南北」などのボディートレーニング学習を設定したことで、教師や仲間と一緒に動くことの楽しさや、心やからだを解放し、表現することの魅力を味わわせることができた。その根拠は、学習ノート【資料8】のように「まだ、恥ずかしさはあるものの楽しかった」や「もっとイメージが表現できるようになりたい」、「仲間とタイミングがあったときは嬉しかった」など創作ダンスに対する期待感を記述した生徒が約8割近くいたからである。また、「基本」の段階で教師や仲間と動く際には、【写真2】のように「もっと伸びてみようか」など自由に話しながら動きを引き出し合っていた。このことから、人と関わり合いながら表現することは、安心して自分のイメージを言葉や動きにする上で有効であったと考える。しかし一方では、イメージにふさわしい動きを即興的に考え、実際に動いてみるとなかなか多様な動きのアイデアが出にくく、苦手である生徒がいることがわかった。その根拠は、学習ノート【資料8】や【資料9】のように「表したいイメージから動きをつくり出せなかった」や「踊りにうまく表現できなかった」などの生徒自身の授業の振り返りの言葉があることから窺えるからである。以上のことから、踊りをつくり出す活動が苦手な生徒に対して、イメージを動きにしやすくするために、良い動きができていないペアを紹介したり、動きのヒントとなるような具体的なイメージの例をわかりやすく提示したりする必要があったと考える。



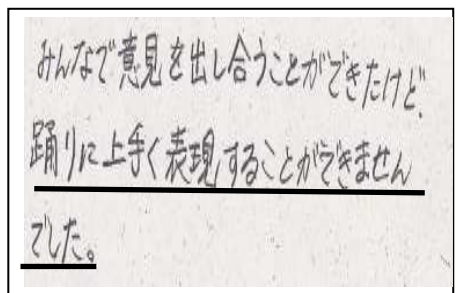
〈写真1：パートナーストレッチ〉



〈写真2：東西南北〉



〈資料8：授業後の生徒A1の学習ノート〉



〈資料9：授業後の生徒B2の学習ノート〉

3 「高める」Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの段階(第2～7時)

(1) 目指す生徒像

- ア 題材から受け取るイメージを端的にとらえ、多様な表現の仕方を工夫し、表したいイメージを表現できる。(技能)
- イ グループで表現のよさや違いを認め合い、ダンス学習に主体的に取り組むことができる。(態度)
- ウ 題材のイメージを言葉で表し、グループに合った表現の仕方を考え、表したい感じをショートポエムにすることができる。(知識、思考力・判断力)

(2) 手立て

- ◇ 2時間ひとくくりの単元構成の工夫
- ◇ 3段階の活動構成の工夫
 - ・ 「基本」の段階・「共感」の段階・「発展」の段階
- ◇ 「内省」する活動の具体的支援
 - ・ ダンスメイクボード (DMボード) ・ イメージカード ・ ショートポエム ・ 学習ノート ・ VTR

(3) 授業展開

2時間ひとくくりの単元構成では、グループの表したい表現にするために踊り込みの活動を増やし、「タイトル」に沿った表現を深めさせた。つまり、一つの「題材」において2時間をひとくくりの授業を繰り返すことで、グループで表したい表現にするために、時間・力・空間といった動きの要素と感情を動きの中に取り入れ、さらに表現の深まりにすることができ、主体的な学習の取り組みが可能になると考えた。

さらに、テーマと題材は、身近な生活、対極の動きの連続、群の動きから考え、以下のように行った。

| 配時 | テーマ・(教具) | 題材 |
|------------|-----------------|--------|
| Ⅰ (第2, 3時) | ひと流れの動き・(ペーパー) | 「秋の風情」 |
| Ⅱ (第4, 5時) | 緩急強弱をつけた動き・(ゴム) | 「交差点」 |
| Ⅲ (第6, 7時) | 群をいかす動き・(新聞紙) | 「人間関係」 |

3段階の活動構成「**基本**」の段階では、イメージにふさわしい多様な動きを経験させるため、それぞれの「高める」段階において、3種類の違った感じのテーマと教具を提示し、教師の動きを模倣する活動を繰り返しながら行った。さらに、表した動きをもとにイメージを出し合い**イメージカード**に記入させ、自己の表したいイメージと仲間のイメージを共有し、グループで表したい「タイトル」を1つにまとめた。また、「タイトル」に沿った表現をするための振り返り活動を行い、動きのアイデアを仲間に伝え、グループで表現したよさや違いを認め合い、表したいイメージの動きをつなぎあわせるために**DMボード**を活用し、踊り込む活動に生かした。

次に「**共感**」の段階では、グループで「タイトル」にふさわしい動きをつくるため、**DMボード**に添付した**イメージカード**を動きとつなぎ合わせて、工夫した多様な動きで踊り込みを行った。

この段階の最後には、動きを広げるために「タイトル」に沿ったイメージの**ショートポエム**をつくり、「タイトル」に沿ったイメージを動きにする活動につなげた。

このことで、「タイトル」に沿った動きができていないかを振り返り、グループで表したいイメージがより明確となり、イメージと動きをつなぎあわせることができると考えた。

「**発展**」の段階では、前段階でつくった**ショートポエム**を活用し、そのイメージに沿った動きを行った。このことで、より表したい動きができると考えた。また、表現したことを振り返るための**VTR**を活用して、グループの表したいイメージが「タイトル」に沿った動きになっているかを映像で見返して、さらに深まった動きができるように再構成した。

さらに、多様な動きが工夫できていたかを振り返らせるため、**学習ノート**に記入する「**内省**」する活動を行った。

高める I の段階(第 2, 3時)

「基本」の段階では、ひと流れの動きを経験させるため、ペーパーの活用を通して、教師の模倣で即興的にとらえた動きをさせた。さらに、題材を「秋の風情」として、動いたイメージを**イメージカード**に記入させ、自分の表したいイメージと仲間のイメージを共有し、グループの表したい「タイトル」を1つにまとめさせた。

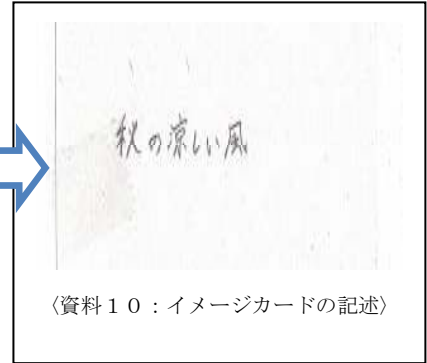
また、表したいイメージと動きをつなぎあわせるために**DMボード**を活用し、踊り込む活動に生かした。

「共感」の段階では、グループの「タイトル」にふさわしい動きをつくるため、**DMボード**に添付した**イメージカード**をつなぎ合わせて、多様な動きを工夫して踊り込みを行った。また、**学習ノート**に多様な動きが工夫できていたかを振り返らせ、「**内省**」する活動を行った。さらに、表したい動きを広げるために「タイトル」に沿ったイメージを言葉に表すための**ショートポエム**をつくり、次時で「タイトル」に沿ったイメージを動きにする活動につなげた。

「発展」の段階では、グループの表したいイメージが「タイトル」に沿った動きになっているかを考え、さらに深まった動きができるように再構成した。**2時間ひとくくりとした単元構成**で、グループの表したい表現にするために踊り込みの活動時間を増やし、グループの「タイトル」に沿った表現を深めさせた。このことは、表現を広げる際に時間・力・空間の動きの要素と感情を入れ込んだ動きを取り入れることによってさらに表現の深まりを可能にすることができ、同じテーマを2時間することで、主体的な学習の取り組みが窺えた。



〈写真3: 「基本」の段階の様子〉



〈資料10: イメージカードの記述〉



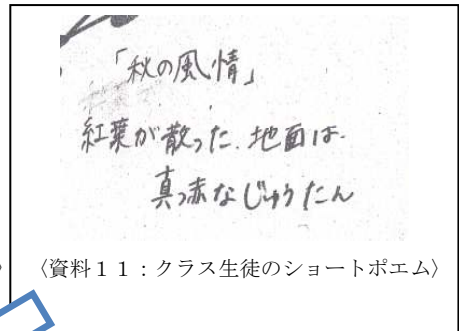
〈写真4: DMボード活用する様子〉



〈写真5: 「共感」の段階の様子〉



〈写真6: 学習ノートに記入する様子〉



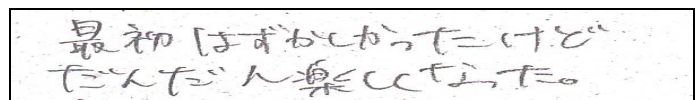
〈資料11: クラス生徒のショートポエム〉



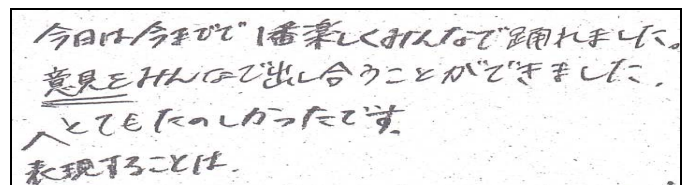
〈写真7: 「発展」の段階の様子〉



〈写真8: 再構成した様子〉



〈資料12: 第2時終了後の生徒B1学習ノートの記述〉

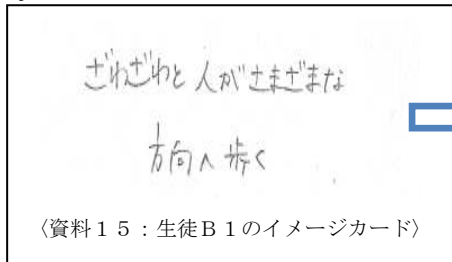


〈資料13: 第3時終了後の生徒A1学習ノートの記述〉

「高める」Ⅱの段階(第4, 5時)

| 学習活動(◆) 教師の支援(◇) | 生徒の姿(生徒A1, 2, B1, 2, C1, 2) |
|---|--|
| <p>テーマ「緩急強弱」をつけた動き</p> <p>題材「交差点」</p> |  <p>素早く、回ってみて。</p> |
| <p>◆「基本」の段階(第4時)</p> <p>・ゴムムーブメント</p> <p>◇教師の模倣で、緩急強弱をつけた動きを身に付けさせるため、幅1cm, 長さ80cm程度の「ゴム」を使って、以下の動きを提示した。</p> <div data-bbox="188 607 628 898" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">提示した内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴムをギリギリまで張って、素早く離れたり、ゆっくりくっついたりさせる。 ・ゴムを極限まで伸ばしたり、縮ませたりさせる。 </div> | <p>生徒A1, 2は、ゴムを絡ませ、早く回ったり、ゆっくり回ったり緩急強弱をつけた動きを行った。</p> <p>生徒B1は、少し照れながら動いていた。</p> <p>生徒C1は、ゴムに興味を示し、しゃがんだり、大きく伸びたりして、高低を使った動きを行った。</p>  <p>もっと、低くして。</p> |
| <p>◆「共感」の段階(第4時)</p> <p>◇「交差点」のイメージを引き出すため、動いたイメージをイメージカードに記入させる。【発信する活動】</p> <div data-bbox="177 1171 628 1458" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>イメージカード</p> </div> | <p>生徒A2, B1, C2は、テーマから受け取るイメージを照らし合わせ、自由にイメージカードに記述できた。</p>  <p>急いで通り過ぎていく感じ。</p> <div data-bbox="1018 1283 1444 1563" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>人と人が通り過ぎていく。 信号</p> <p>〈資料14:生徒A2のイメージカード〉</p> </div> |
| <p>◇自己のイメージを言葉で伝えるため、イメージカードをDMボードに添付させる。</p> <p>【交流する活動】</p> <div data-bbox="196 1653 639 1995" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>授業の軌跡</p> <p>動きの要素</p> <p>イメージカード</p> <p>動きの工夫</p> </div> <p>「ダンスメイクボード」(DMボード)</p> | <p>人が通り過ぎる。</p> <div data-bbox="687 1653 1026 1989" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>添付</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ガヤガヤした ・通り過ぎる ・交差する ・人が多い <p>〈抽出グループのイメージ〉</p> <div data-bbox="1050 1570 1444 2098" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>タイトル</p> <p>抽出グループは、イメージを1つにまとめて、タイトルをだした。</p> </div> <p>〈写真12:イメージの違いを伝える生徒A2, C1, C2の様子〉</p> |

◇グループのタイトル「many people」を表現させるため、DMボードを活用し、イメージに合う動きを時間・力・空間の要素から考えさせる。



〈写真13：抽出グループの様子〉

抽出グループは、ざわざわ行き交う様子を即興的に表現した。

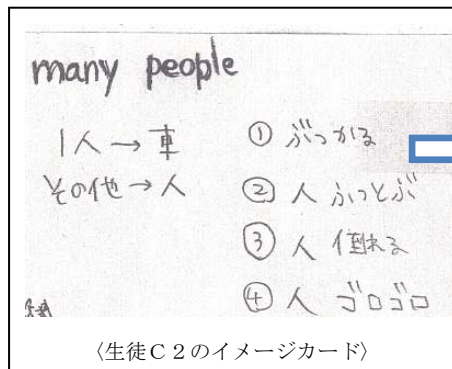
生徒C2は、両手を早く振って、急いでいる様子を表した。
〈時間〉

◇表現を工夫する視点の確認のため、DMボードを活用させる。



〈写真15：グループの表現を工夫する様子〉

抽出グループは、イメージカードを手を持って、動きの工夫を話し合っていた。



〈写真16：抽出グループの倒れ合う様子〉

生徒A2は、大胆に転ぶ様子を表した。〈力〉
生徒B2は、他の生徒のまねをして大きく動いた。〈空間〉
生徒C1は、恥ずかしさから、からだ全体を使った大きな動きができなかった。

◇表したいイメージを表現させるために、本時の学習で学んだことを振り返り学習ノートに記述させる。また、次時の活動に向けて、表したい動きを記述させる。【内省する活動】



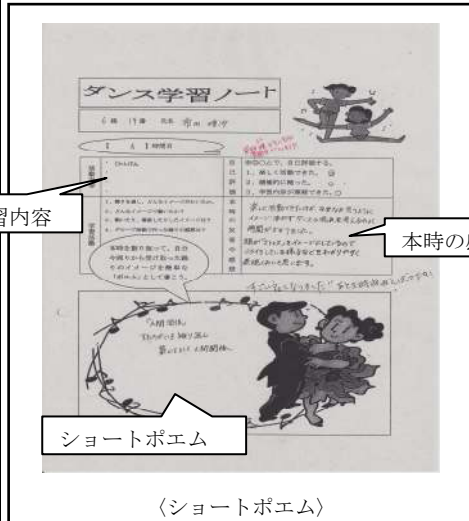
〈資料16：学習ノート〉



〈写真17：学習ノートで振り返る生徒B1、C1の様子〉

生徒A1は、次時に向け、動きの工夫を記述した。
生徒B2は、学習の振り返りを行い、新たな動きを見つけ出していた。
C1の感想では、イメージだけを記述した。

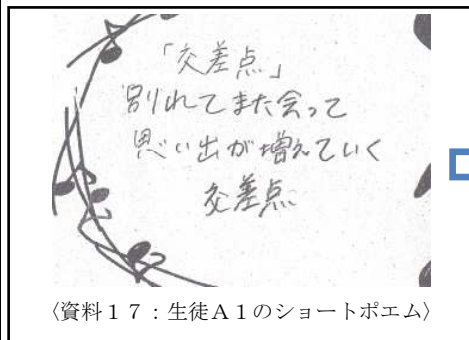
◇発展した表現につなげるために、**学習ノート**へグループの表したいイメージに合った**ショートポエム**を記入させる。【**「内省」する活動**】



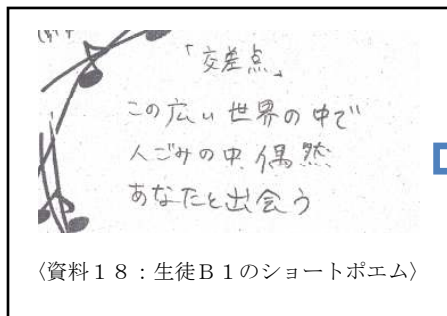
〈ショートポエム〉

◆「発展」の段階（第5時）

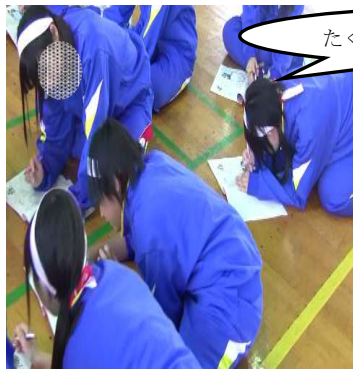
◇感情を込めた動きをつくるために前時の**ショートポエム**をもとに動きを再構成する。



〈資料17：生徒A1のショートポエム〉



〈資料18：生徒B1のショートポエム〉



たくさんの人が通り過ぎる様子。

〈写真18：ショートポエムで、
振り返る抽出グループの様子〉

生徒A1, A2は、互いのショートポエムを見せ合い、表現したいことを確認し合う姿を見せた。



交互に交差すればいいよ。

〈写真19：踊りを確認し合う
B1, C2児様子〉

生徒B1, C2は、身振りを交えて表現したいことを話していた。



人との別れで悲しそうに歩こう。

〈写真20：ショートポエムを
活用して表現する様子〉

生徒A1は、別れをイメージして、悲しそうな表情で歩いた。
〈感情〉



広く場所をつかって。

〈写真21：ショートポエムを活用して表現する様子〉

生徒B1は、広い世界をイメージし、場所を大きく使い動いた。
〈空間〉

◇さらに発展した表現に高めるために以下の手立てを仕組んだ。

・動きの再構成をさせるために**DMボード**を活用させる。



〈写真22：抽出グループが踊りの再構成をしている様子〉

◇生徒に表現したことを振り返らせるため、**VTR**で再現して表現を振り返らせる。



〈教師が手持ちビデオで撮影の様子〉

◇2時間学習したことを振り返らせるため、動きの工夫を**学習ノート**に記述させる。

【内省する活動】



『内省』する活動の様子

高さを考えて回ろう。



〈写真23：抽出グループの表現〉

生徒A1は、大きくしゃがんだ。
生徒B1は、からだ全体をしっかりと伸ばした。
生徒C1は、高低の動きを取り入れた。
〈空間〉

大きく手をあげてみて。



〈写真24：抽出グループの表現〉

生徒C2は、友達の動きをまねた。また、抽出グループの表現では、手先も大きく使い、体を回転させ、ねじるなどの動きも加わった。
〈空間、力〉

もう少し、指先まで伸ばそうよ。



〈写真25：ビデオで振り返る抽出生徒〉

抽出グループは、ビデオで撮影した表現を興味深く見返していた。

ぶつかって、はじけるように。



〈写真26：抽出グループの表現〉

抽出グループは、表したいイメージが、みる人にも伝わるように大きく弾んだり、激しくジャンプしたりして踊り込んだ。〈力〉

時間の要素を工夫できてよかった。



〈写真27：ノートに記述する生徒〉

生徒A2は、表現したことを振り返って、グループの動きの工夫を学習ノートに記述していた。〈資料21〉

「高める」Ⅲの段階(第6, 7時)

「基本」の段階では、群をいかす動きを経験させるため、新聞紙の活用を通して、教師の模倣で即興的にとらえた動きをさせた。さらに、題材を「人間関係」として、動いたイメージを**イメージカード**に記入させ、自分の表したいイメージと仲間のイメージを共有し、グループの表したい「タイトル」を1つにまとめさせた。

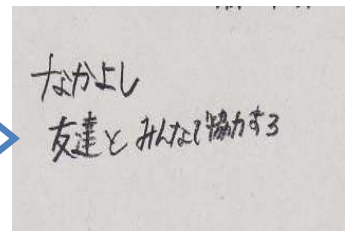
また、表したいイメージと動きをつなぎあわせるために**DMボード**を活用し、踊り込む活動に生かした。

「共感」の段階では、グループの「タイトル」にふさわしい動きをつくるため、**DMボード**に添付した**イメージカード**をつなぎ合わせて、多様な動きを工夫して踊り込みを行った。さらに、表したい動きを広げるために「タイトル」に沿ったイメージを言葉に表すための**ショートポエム**をつくり、次時で「タイトル」に沿ったイメージを動きにする活動につなげた。

「発展」の段階では、グループの表したいイメージが「タイトル」に沿った動きになっているか**VTR**を使って振り返らせ、さらに深まった動きができるように再構成した。また、**学習ノート**に多様な動きが工夫できていたかを振り返らせ、「**内省**」する活動を行った。



〈写真28: 「基本」の段階の様子〉



〈資料19: イメージカードの記述〉



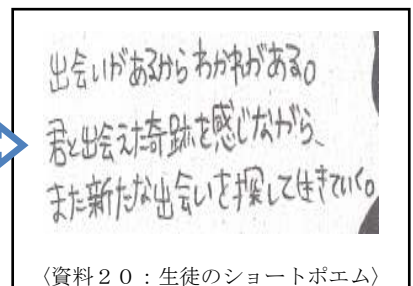
〈写真29: DMボードで話し合う抽出グループ〉



〈写真30: 「タイトル」を出し合う抽出グループの様子〉



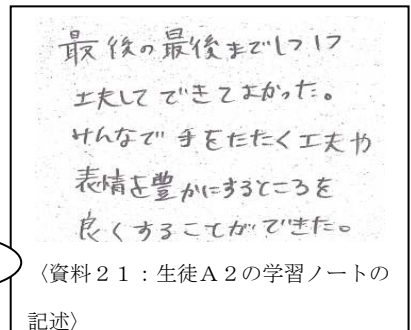
〈写真31: 学習ノートに記入する生徒〉



〈資料20: 生徒のショートポエム〉



〈写真32: 「共感」の段階の様子〉



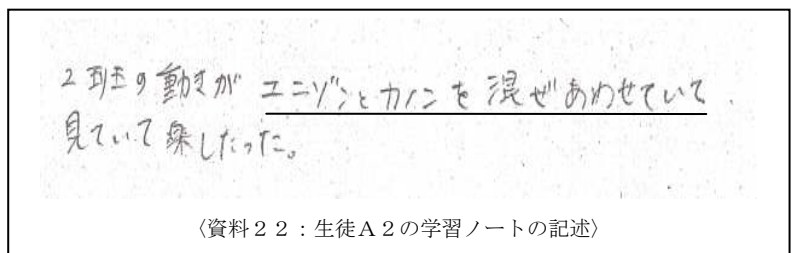
〈資料21: 生徒A2の学習ノートの記述〉



〈写真33: 「発展」の段階の様子〉



〈写真34: 再構成した表現の様子〉



〈資料22: 生徒A2の学習ノートの記述〉

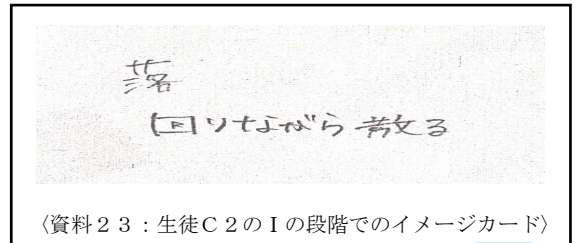
(4) 考察

3段階の活動構成「基本」Ⅰ～Ⅲの段階で、イメージを端的にとらえて表現ができたと考える。その根拠は、イメージカードの記入【資料23, 24, 25】から比較すると即興的に表現したイメージを振り返り、感情や気持ちを表すような言葉が増えていったからである。

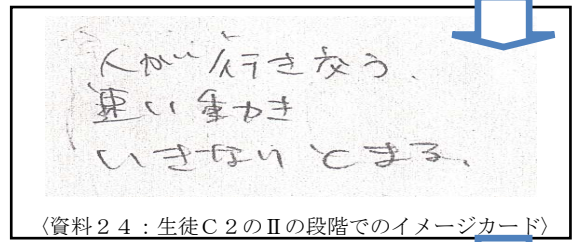
また、イメージを【資料10】のように端的に文字で表し、教師の模倣から【写真5】のような表現になり、イメージの表現が広がったと考える。

「高める」段階のⅡでは、対極の動きや空間の使い方をし、踊り込みを行うことができなかった。その根拠は、「基本」の段階での教師の模倣する時間が長いことや【写真12】のようにグループの「タイトル」にふさわしい表現をつくるための生徒同士の話し合いも長かったからである。終了後の学習ノートにも【資料40】からも表現するのに「時間がかかった」と答えている。「内省」する活動では、次時に向けて、表したいイメージをことばとして振り返り、【資料11】のように記述して、「タイトル」に沿ったショートポエムをつくることができた。また、Ⅰ～Ⅲを比較すると【資料20】のようにことばの広がりが見受けられ、【写真33】のように次時の「発展」の段階につなげることができた。形成的授業評価【資料29】でも、友だちと関わる（踊り合ったり、助け合ったりできたか）の項目において、クラス平均が2.8点（3.0満点中）と高く、互いのよさや違いを認め合い、ダンス学習に主体的な取り組みができたと考える。

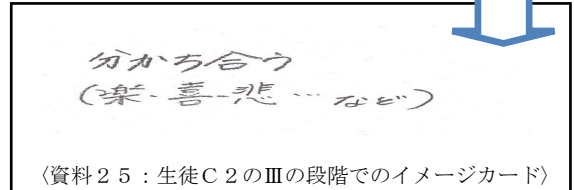
「発展」の段階Ⅱ、Ⅲでは、グループとイメージを深めるための表現が工夫できたと考える。これは、教師のVTRでグループの表現した映像を見返すことで、グループの表現の違いやよさが確認でき、グループの新たな動きを伝え合い、【資料27, 28】のように動きの再構成を行う上で有効であったからである。学習の最後には、「内省」する活動において、2時間学習した内容を学習ノートに記述し、グループの「タイトル」に沿ったイメージを表すことができるようになった。これは、自分の活動を振り返ることで、【資料21】を比較しても新たな動きの時間・力・空間の要素と感情を動きの中に加えようとする記入が多くなり、【資料39】のようにすべての項目において得点が上がり、2時間ひとくくりの単元構成を行い、授業を繰り返す学習が有効であったからと考える。



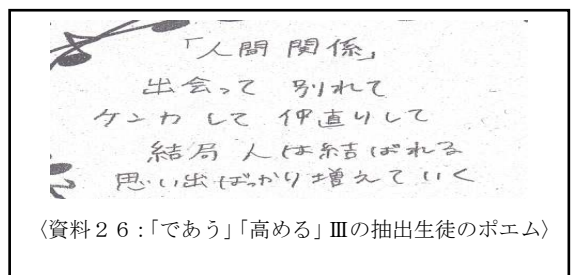
〈資料23：生徒C2のⅠの段階でのイメージカード〉



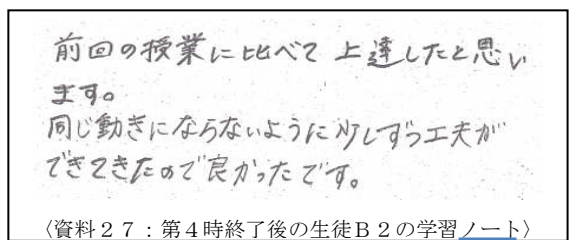
〈資料24：生徒C2のⅡの段階でのイメージカード〉



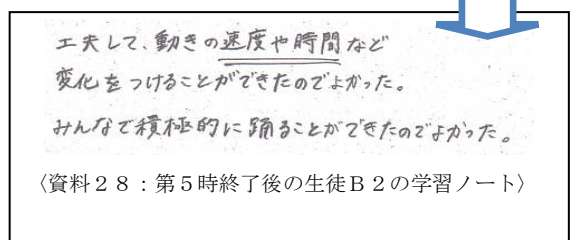
〈資料25：生徒C2のⅢの段階でのイメージカード〉



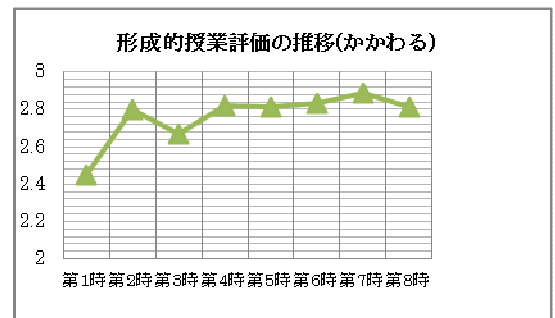
〈資料26：「であう」「高める」Ⅲの抽出生徒のポエム〉



〈資料27：第4時終了後の生徒B2の学習ノート〉



〈資料28：第5時終了後の生徒B2の学習ノート〉



〈資料29：形成的授業評価のクラス平均〉

4 「いかす」段階(第8時)

(1) 目指す生徒像

- ア 表したい「タイトル」にふさわしいイメージで、イメージを強調した作品にまとめて表現することができる。(技能)
- イ 発表会を通して、表現を高め合うために合意形成に貢献でき、互いの違いやよさを賞賛できる。(態度)
- ウ 発表の仕方を理解し、みる人に伝わりやすいように表現の仕方を工夫し、表したいイメージをショートポエムに表わすことができる。(知識, 思考力・判断力)

(2) 手立て

◇ 3段階の活動構成の工夫

- ・「発展」の段階と『発表会』

◇ 「内省」する活動の具体的支援

- ・ダンスメイクボード (DMボード) ・イメージカード ・ショートポエム ・VTR ・学習ノート

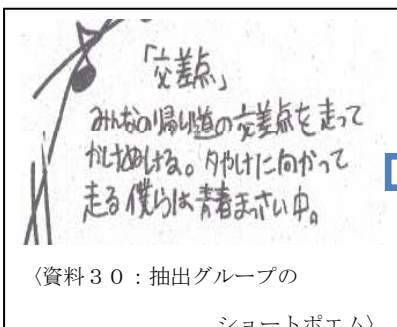


(3) 授業展開

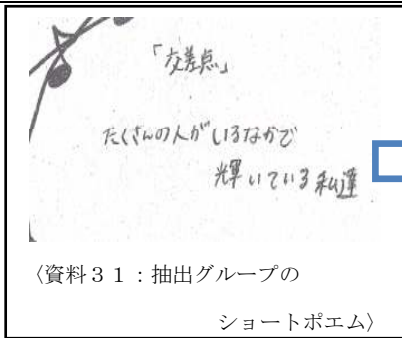
「いかす」段階では、グループがこれまで学習したテーマから1つ選び、発表会に向けて動きを再構成しながら踊り込み、『発表会』を行った。

「発展」の段階では、多様な表現にするために話し合い、ショートポエムを活用し、動きの要素「時間・力・空間」に「感情」を加え、表したいイメージを一層深めた表現ができるようにした。さらに、踊り込みを行う際にVTRやDMボードを活用することで、イメージを共有し、みる人に伝わりやすくするような表現の工夫を考えさせた。

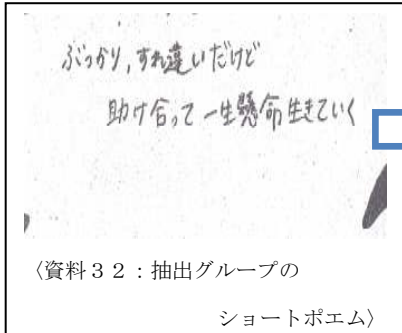
「発表会」では、グループごとに「タイトル」と伝えたいイメージや思いを事前に言わせ、鑑賞の視点を明らかにした。その際、今まで作ってきたDMボードを見せながら生徒自身が説明を行うことで学習活動の過程が、見る人に伝わるようにした。

また、「内省」する活動において、学習ノートに他のグループの良い動きを具体的に記述させ、自分のグループの課題をはっきりさせるようにした。

| 学習活動(◆) 教師の支援(◇) | 生徒の姿 (生徒A 1, 2, B 1, 2, C 1, 2) |
|--|---|
| <p>◆「発展」の段階</p> <p>表したいイメージにふさわしい動きにするため、ショートポエムで振り返りを行わせ、グループが表したいイメージで、踊り込みをさせる。</p> <p>【発信する活動】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">  <p style="font-size: small;">〈資料30：抽出グループのショートポエム〉</p> </div> | <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;">  <p style="font-size: small;">〈写真35：ショートポエムを見返す様子〉</p> </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;">  <p style="font-size: small;">〈写真36：資料30を表現する様子〉</p> </div> <p style="font-size: small;">青春まっただ中。</p> <p style="font-size: small;">抽出グループ全員で、ショートポエムを活用し、思いや考えを話し合っていた。</p> <p style="font-size: small;">夕焼けに向かって。</p> <p style="font-size: small;">抽出グループ全員で、ショートポエムからのイメージを参考に場所を大きく使って動いた。〈空間〉</p> |



〈資料31：抽出グループの
ショートポエム〉



〈資料32：抽出グループの
ショートポエム〉

◇振り返ったショートポエムを活用して、踊り込みをさせる。



〈クラス全体の踊り込みの様子〉

◇DMボードを活用して、グループの表現したいことを伝え合うため、表現したいイメージをグループで話し合わせる。【交流する活動】

◇踊りの再構成をするため、VTRによる動きの振り返りを行わせる。さらに深まった表現につなげていく。

◇それぞれの「タイトル」のイメージにふさわしい動きに「時間」・「力」・「空間」の要素に「感情」を加えて、イメージを強調させる。このとき、グループで、交流しながら踊り込みをさせる。

たくさんの方がいる中の様子。



〈写真37：資料31を表現する生徒〉

抽出グループは、今までの活動から表したいタイトルを「many people」に選び、踊り込みを行った。

すれ違う様子。



〈写真38：資料32を表現する様子〉

交差点をイメージして、すれ違うように歩いた。
〈時間、空間〉



〈写真39：抽出グループの表現する様子〉

抽出グループ全員で、「一生懸命」の様子を表現した。〈感情〉



〈写真40：抽出グループがDMボードを活用している様子〉

もっと、嬉しい感じを出そう。



〈写真41：VTRで見返す抽出グループ〉

もっと嬉しい感じが、伝わるように。

抽出グループは、VTRで動きを振り返り、自分たちの動きを確認し合っていた。

気持ちを込めた表情で。



〈写真42：全身いっばいに手を広げ表現する様子〉

全員が、からだ全体で、表情豊かに踊っていた。〈感情〉

◆発表会

◇グループの代表者に「タイトル」と表したいイメージを説明させ、その内容を他のグループが、相互評価する際の参考とする。

◇グループ毎に発表させる。

◇生徒の感想を発表することで、互いのよさや違いを認め合うようにさせる。

◆学習のまとめ

◇発表会を鑑賞させ、クラス全員で互いに称賛する態度を養い、学習を振り返らせる。

【内省する活動】

◆内省する活動

◇2時間学習したことを振り返らせる。また、「内省」する活動の具体的支援である学習ノートに学んだことや表現の工夫を記述させる。

【内省する活動】



〈写真43：発表会の様子〉

人間関係のもつれを表現しました。

DMボードを手に持って、B1は、グループの思いを発表した。



〈写真44：各グループの発表の様子〉

からだ全体で表現しよう。

気持ちが伝わるね。



〈写真45：発表をみる様子〉

全員で、互いに称賛し、発表を鑑賞していた。



〈写真46：全員の前で発表する生徒A1〉

感情を表現できるように頑張りました。

生徒A1は、ノートからの振り返りを記述したものを発表した。



〈写真47：生徒A1の発表を賞賛し合う様子〉

各班の違いや良さがわかった。

生徒B1、C2は、互いに称賛し、盛大な拍手をした。



〈写真48：学習を振り返る生徒C2の様子〉

みる人に伝わるような表現をしました。

C1は、発表会を通して、自己の表現やグループの違いを振り返っていた。

(4) 考察

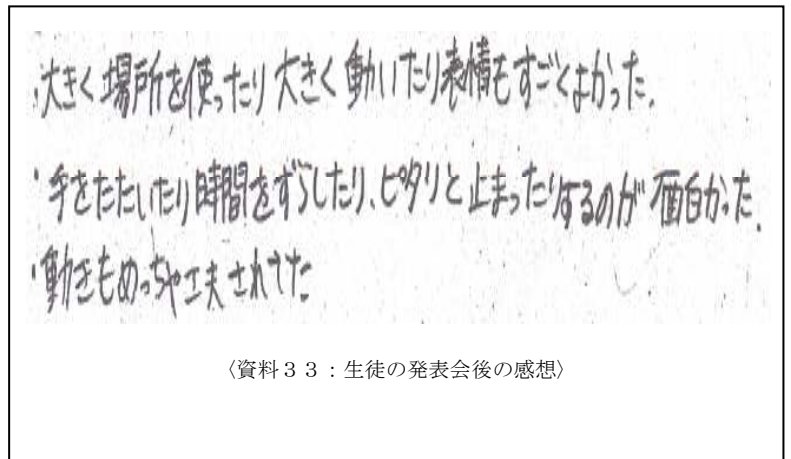
「発展」の段階で、「内省」する活動の具体的支援として、DMボード、ショートポエム、VTRを活用したことは、仲間とともにイメージを強調した表現の工夫を行いながら、表したいイメージを深めていく上で有効であったと考える。

その根拠は、【資料30, 31, 32】のようなショートポエムを活用して、より感情が伝わるような表現を工夫していたからである。そのことは、【写真36, 37, 38】のように動きを工夫して、作り上げていた様子からもわかる。

また、グループごとに撮影したVTRを使って動きを確認させたことは【写真41】、自己の表現を見直し動きを再構成する活動につながった。【写真42】

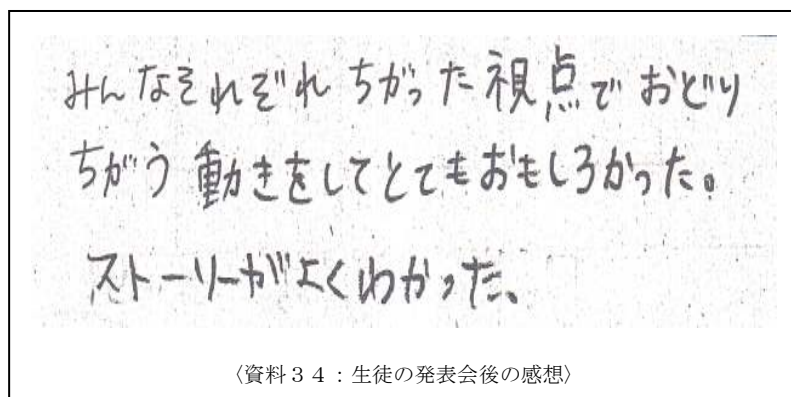
生徒の感想【資料33】からも、動きの要素を振り返り、そこに表情を加えた言葉を記述したことをみると自己を見つめる「内省」する活動が導かれたと考える。

また、表したいイメージがみる人に伝わっている様子なども見られた。



〈資料33：生徒の発表会後の感想〉

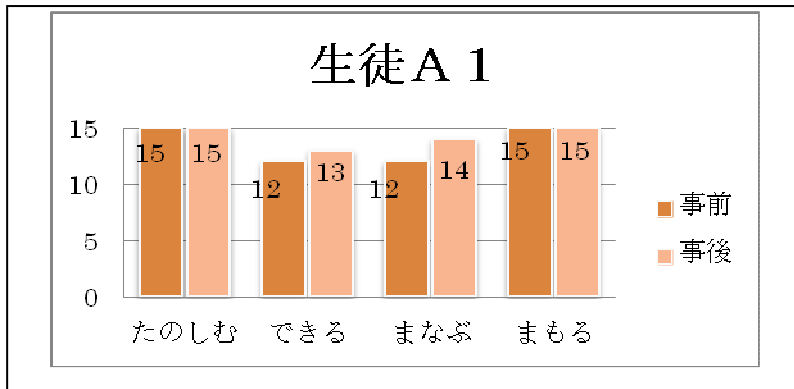
全体の発表会では、グループで表現したいことを【写真43】のように説明させたことで、表現したいことを互いに共有することができた。また、グループ発表では、思いが伝わるようからだ全体を使って精一杯表現しようとする姿や【写真44】のようにクラス全体で作品を鑑賞し、【写真45】のように仲間の表現を賞賛し合う姿が見られた。このことはダンス学習を通して、深まりある表現から互いの表現を認め合い、発表した達成感や満足感を味わっている様子【写真47】からも見受けられる。また、学習の最後には、学習ノートに感想を記述させた「内省」する活動と【資料34】のような感想を発表させることを通して、コミュニケーション能力が高まり、互いのアイデアや表現を賞賛したり共感したりして、ダンスの楽しさを味わっている様子が見受けられた。



〈資料34：生徒の発表会後の感想〉

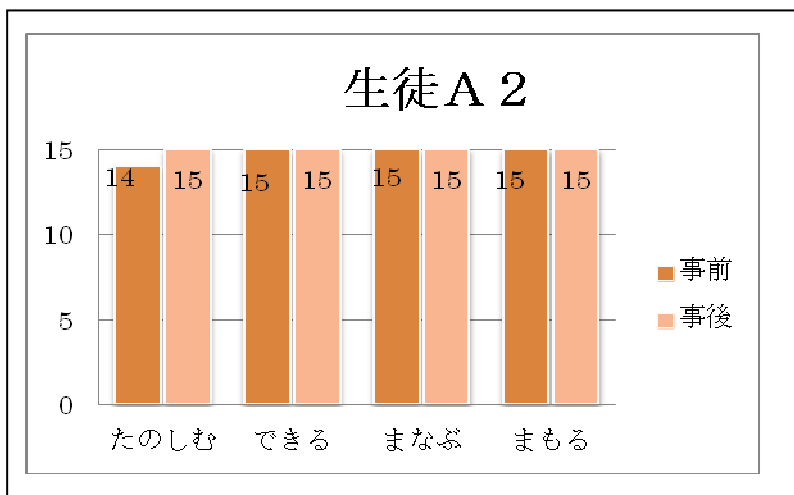
5 事後調査

(1) 総括的授業評価（診断的授業評価比較）



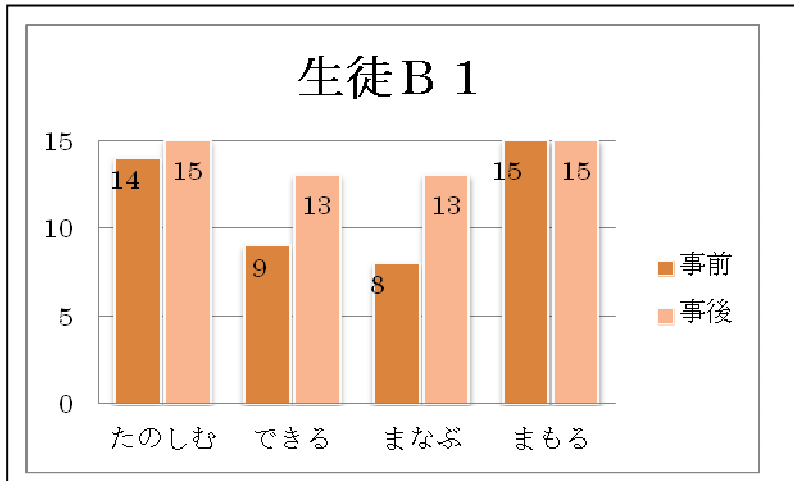
生徒A 1

「できる」「まなぶ」については、それぞれ1、2点上がり、「たのしむ」「まもる」は、それぞれ15点の高評価である。



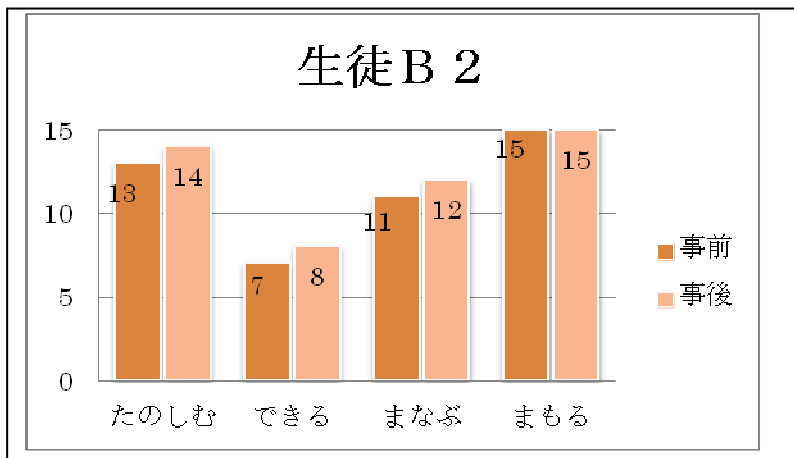
生徒A 2

事前調査から「たのしむ」だけが14点で、「できる」「まなぶ」「まもる」のすべてについて、15点であった。また、事後では、すべての15点満点の高評価である。



生徒B 1

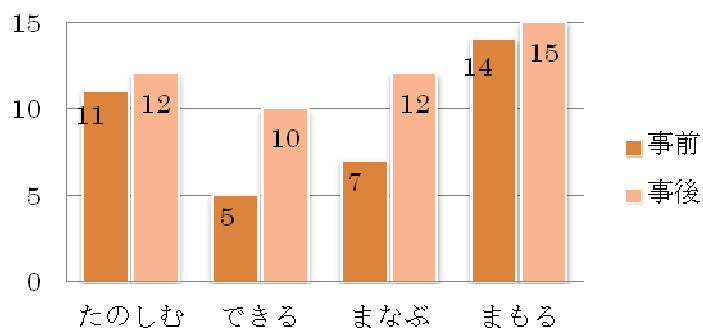
「できる」「まなぶ」については、それぞれ4～5点上がり、「たのしむ」「まもる」は、それぞれ事後では、15点の高評価である。



生徒B 2

「たのしむ」「できる」「まなぶ」については、それぞれ1点上がり、「まもる」については事前事後とも満点であった。

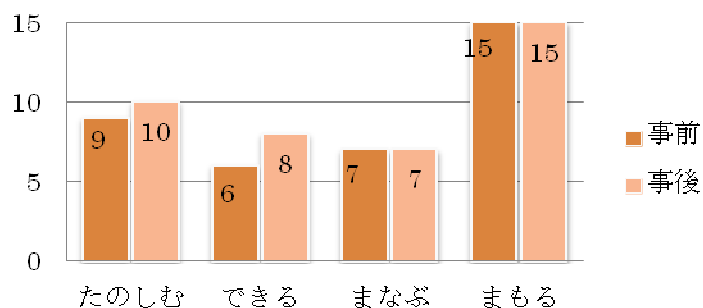
生徒C 1



生徒C 1

「たのしむ」「できる」「まなぶ」「まもる」すべての得点が高くなる結果がでた、特に、「できる」「まなぶ」については、5点も向上し、表現することに自信を持つことができたと思う。

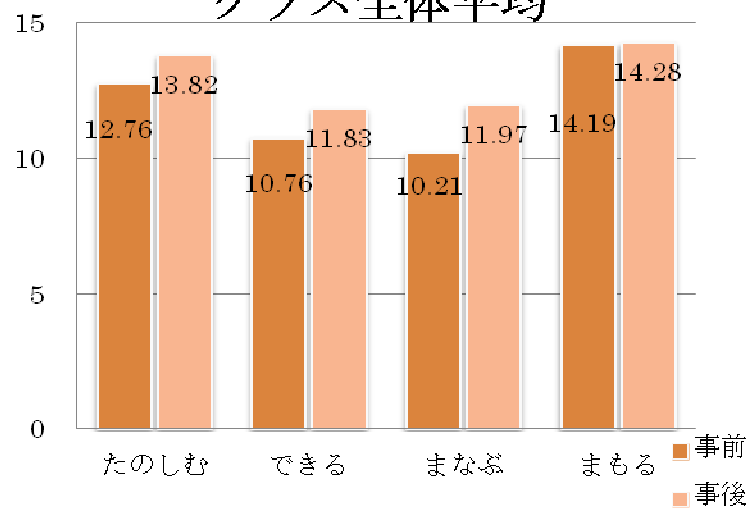
生徒C 2



生徒C 2

「たのしむ」「できる」「まなぶ」「まもる」すべての得点が高くなる結果がでたが、得点については、依然低い。しかし、形成的授業評価からも表現する楽しさを持つことができたと思う。

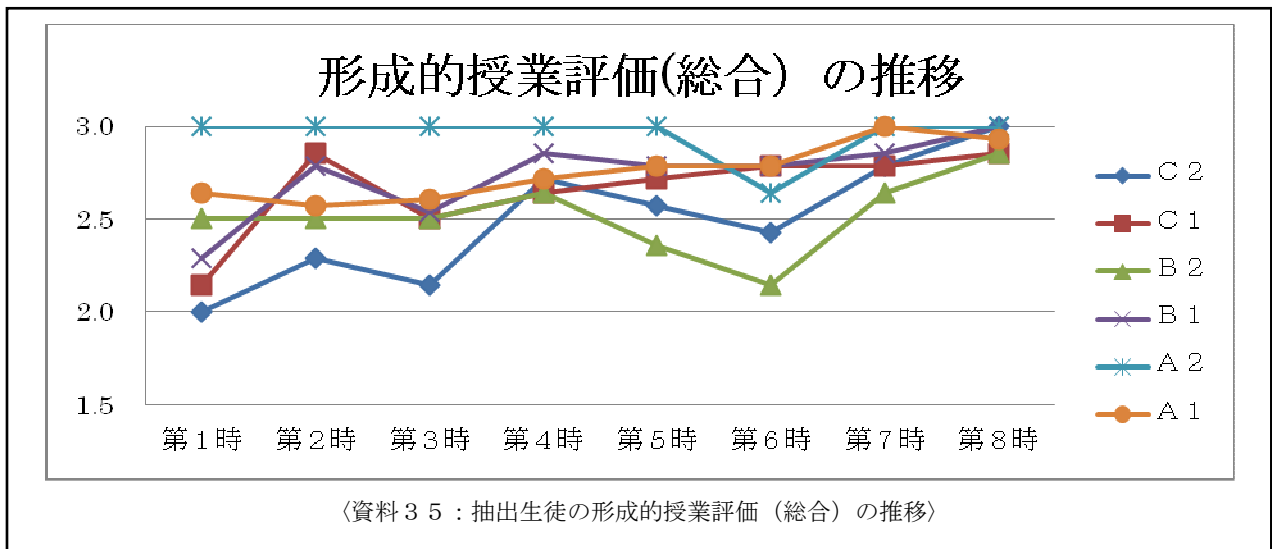
クラス全体平均



学級全体

「たのしむ」「できる」「まなぶ」「まもる」すべての得点が高くなる結果がでた。このことから検証授業を通して、表現する楽しさや喜びが味わえ、2時間ひとくくりとした単元構成と3段階の活動構成、『内省』する活動の工夫が効果的であり、表現を広げ、深めて踊ることができたと思う。

(2) 形成的授業評価（総合）の推移



形成的授業評価はすべての抽出生徒において、時間ごとに多少の上下動はあるものの少しずつ高まっていった。特に、生徒A1、C2は、毎時間ごとに総合評価が上がってきており、「いかす」段階では高い値を示した。

楽しく活動ができたのでよかったです。
イメージを考えるのが難しかったです。
 だけど次の授業が楽しみです。

〈資料36：生徒A1の「高める」I後の感想〉

題が「ストレス」をイメージにしているので
 イライラしている様子などをわかりやすく
表現したいと思います。

〈資料37：生徒C2の「高める」III後の感想〉

これは、生徒A1、C2の感想からも授業を受けるごとに授業への主体的な取り組みが高まり、自己の表現を工夫していると感じていることからもうかがえる。【資料36、37】

2時間ひとくくりの単元構成の授業で、「高める」段階Iのテーマ「秋の風情」においては、創作ダンスの経験が少なく、表現に戸惑っていたと考える。また、「高める」段階IIIのテーマ「人間関係」では、抽象的なテーマであったため、具体的な表現の仕方やイメージが沸きにくかったと考えられる。しかし、「高める」段階IIに関しては、「交差点」というテーマが日常生活からイメージしやすく、人が行き交っている様子を自己のイメージ通りに表現することができていた。

また、「高める」段階I、II、IIIにおいて、生徒の主体的な学びと工夫した表現を引き出す上で、「**基本**」「**共感**」「**発展**」の3段階の活動を繰り返し経験させることが大切であることがわかった。

6 動きの変容

「高める」Iの段階と「いかす」段階の比較



〈やわらかい動きをする生徒A2〉

生徒A2の「高める」I段階では、ペーパーを使って「秋の風情」のやわらかい動きを表現していた。



〈表情豊かに表現する生徒A2〉

からだ全体で。

「いかす」段階では、「時間」・「力」・「空間」の要素を工夫して表現し、「感情」を加え表情豊かに表現することができていた。また、周囲の生徒にも助言を行うなど積極的な交流がみえた。



〈恥ずかしそうにする生徒B2〉

「高める」I段階では、動いている様子はぎこちなく周囲の視線を気にしながら、木の葉のひらひらした様子を表現していた。



〈笑顔で表現する生徒B2〉

大きく表現して。

「いかす」段階では、自己の考えを積極的に言葉に表し、人が交差点でぶつかる感じを空間の要素を取り入れ、大きく倒れ込んで表現できた。



〈照れながら踊る生徒C2〉

「高める」I段階では、ペーパーを持って動かすだけで人の動きをみるが多かった。



〈表情豊かに表現する生徒C2〉

素早く動いて。

「いかす」段階では、時間の要素からスピードを変えたりして、イメージに没入して、表情豊かに表現できた。

今回は表現が深すぎ、苦勞しました。
 感情を出すことを頑張ります。
 (悲しみ、怒り、喜び)
 明日は、より分かりやすく感情を表現できるようにしたいと思います。

〈資料38：生徒A1の学習ノートの感想〉

このように、表したいイメージを動きに変える上で、3段階の活動構成を繰り返すことで動きの工夫や仕方が理解できるようになり、「時間」・「力」・「空間」の要素に「感情」を加え、動きを高めることにつながる事がわかる。

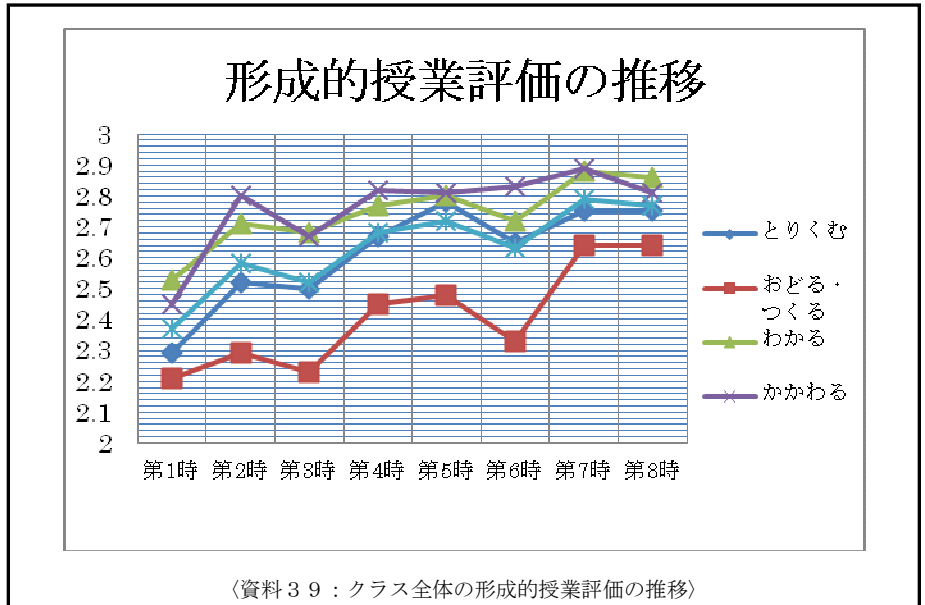
また、生徒の感想から、見る人に伝えるために動きの要素を取り入れ、感情を加えた表現をしようとした様子がうかがえる。

〈資料38〉

Ⅶ 全体考察

1 2時間ひとくくりの単元構成の工夫について

2時間同じテーマに沿って授業を繰り返したことで、形成的授業評価のすべての項目のクラス平均が高くなった。これは、見る人に伝わるように表現しようとする主体的な取り組みや授業を繰り返し行ったことで、授業の流れがつかめ、表現の方法を理解することができたからである。このように、仲間と創作していく方法もわかったが、第3時の評価が落ち込んだ理由としては、【資料40】のように創作する授業が初めてで、仲間とともにイメージを表現する場合に話し合いの時間がかかったからだと考える。また、教師の模倣や発問の時間が長く、創作する活動時間が少なかったのではないかと考える。第6時に落ち込んだ理由としては、テーマを「人間関係」にしたことで、【資料41】のように「人間関係のもつれ」など複雑な感情を表現することは難しかったからである。こ



〈資料39：クラス全体の形成的授業評価の推移〉

楽しく活動できたけど、なかなか思うように
イメージが湧かずダンスの流れを考えるのに
時間がかかりました。

〈資料40：抽出生徒B2の

学習ノートの感想〉

人間関係のもつれや模様を
表現するのが出来なかった。この習いで
おどろと話し合、いいと思います。
感情を表現できたので良かったです。

〈資料41：抽出生徒C2の

学習ノートの感想〉

このことから、テーマを決定するときには、「喜怒哀楽」のように幅広いテーマよりも「喜び」、「怒り」、「哀しみ」、「楽しさ」、などの中からテーマを一つに限定して、イメージを広げていけるような提示の仕方を工夫する必要があると考える。

2 3段階の活動構成の工夫について

「基本」「共感」「発展」の3段階の活動構成をしたことで、イメージを深めて表現することができたと考える。

「基本」の段階で、第2時、第4時、第6時のそれぞれにペーパー、ゴム、新聞紙などといった質感の違う教材を使って教師が動きを提示し、模倣させた。教師の模倣で動きを行うことは、イメージを動きに表す方法を理解する上で効果があり、生徒は仲間とともにイメージを広げて動きにする方法を考えて動いた。【写真3、9、28】

このことから、「基本」の段階を設定することは、イメージにふさわしい動きを創り出す上で効果があったと考える。

「共感」の段階では、自己のイメージを仲間と伝え合いながら、「基本」の段階での動きを「時間」、「力」、「空間」の動きの要素から変化をつけ、工夫した表現につなげた。【写真5、13、15、16、32】また、グループ全員で、表したいイメージを確認することができ、表現の再構成につなげることができた。【写真4、11、14、29】

「発展」の段階では、ショートポエムをヒントに「共感」の段階で、広げた動きに感情を加え、表現しようとしていた。このことで、よりイメージが強調され、深まった表現に再構成された。

以上のことから、3段階の活動構成を工夫したことは、「基本」「共感」「発展」を繰り返しながら、生徒が動きを高める上で効果があったと考える。また、3つの違う題材を体験させたことで、表現の広がりを持たせることができた。

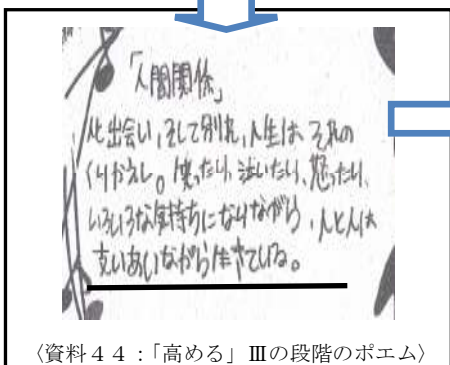
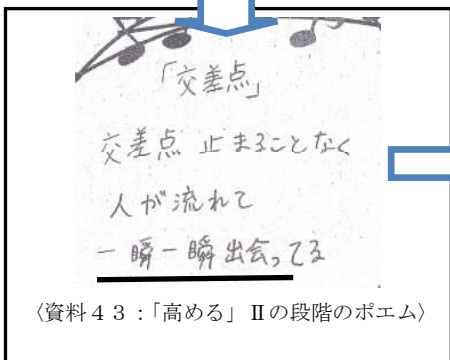
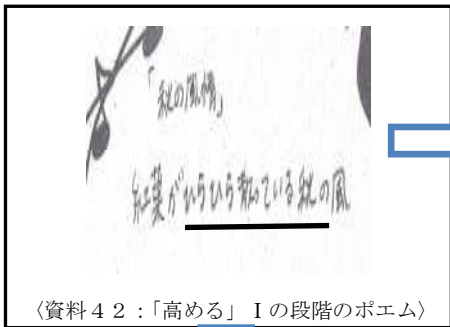
3 「内省」する活動の具体的支援について

DMボードでは、動きの工夫や学習を記録することができたと考える。これは、**イメージカード**を動きの要素から分類し【写真4，14】、動きを創る活動に生かされたからである。【写真5】また、グループのイメージを共有したり動きを振り返ったりする交流活動にも役立ち【写真22，29】、生徒の主體的な取り組みを促した。このことから、動きを創る活動で、**DMボード**を活用したことは、グループで表したい動きを工夫するために話し合ったり、動きを振り返ったり、学習を記録したりする活動に生かされ、有効であったと考える。

イメージカードでは、時間・力・空間の要素と感情を加えた動きが具体的に記述され【資料23～25】、表したいイメージを表現することに生かされている。これは、【資料39】の形成的授業評価の「おどる」「つくる」項目においても点数が上がっているように、表現の仕方や方法が理解され、授業を重ねるごとに記入方法や動きの要素の記述の仕方がわかった結果である。このことから、教師の発問内容を工夫し、具体的な動き方やイメージを言葉に表す際の記入例を提示する必要があると考える。

ショートポエム【資料42～44】では、表したいイメージを表現することができたと考える。これは、【写真49～51】のように、動きの要素を取り入れ、感情を表現の中に加えようとする表現の高まりが窺えるからである。**ショートポエム**の広がりによって感情を入れた言葉の広がりが見受けられ、イメージを表現する活動に取り入れられた。また、「高める」Iの段階の「秋の風情」での**ショートポエム**や「高める」IIの段階の「交差点」からの**ショートポエム**、「高める」IIIの段階の「人間関係」からの**ショートポエム**でも動きの要素だけでなく、人間の感情なども組み込まれていった。

このことから、表現を深めるために自己の感情を言葉に表すことは、互いのイメージを共有でき、表現する活動に生かされることから有効であると考えられる。



学習ノートでは、【資料45～47】のように「高める」段階のIと「いかす」段階の記述を比較すると、「高める」Iの段階では、教師からの具体的な記述の仕方が示されなかったことで、生徒もどのように動きの要素を書けばよいかかわからず、「楽しかった」や「難しかった」などの感想だけで、具体的にイメージを表現する工夫や動きの内容が振り返られていなかった。このことから、学習ノートを活用する場合は、「時間」「力」「空間」の要素の具体的な記入例と動きから受け取ったイメージの記述方法を示す必要がある。

「高める」I段階の感想：
みんなで笑い合いながら楽しく踊ることができた。

「いかす」段階の感想：
最後の最後まで、一つ一つ工夫できてよかった。
手を叩く工夫や表情を豊かにするところが良くなってきた。

〈資料45：生徒A1の学習ノート〉

「高める」I段階の感想：
イメージを考えるのが難しかったです。

「いかす」段階の感想：
顔の表情や動きをしっかり表現したいです。

〈資料46：生徒B1の学習ノート〉

「高める」I段階の感想：
恥ずかしかったけど、楽しかった。

「いかす」段階の感想：
イメージしたダンスがなかなか思いつかなくて、ダンスを増やすことができなかった。
また、良いところと悪いところを見ている人がわかるようにしたい。

〈資料47：生徒C1の学習ノート〉

VTRでは、表したい動きの振り返りをするために、表現を高めることができた。これは、【写真53】のように動きを振り返るために有効であり、「共感」の段階で表現したことを【写真54】のようにさらにイメージを深めた表現に再構成され、動きを高めることができた。このことから、VTRの活用が仲間と表現を振り返る活動に役立ち、互いの意見を伝える活動や自己の動きを振り返る活動に生かされ、さらに見る人に伝わるような表現をしようとする主体的な学習をする上で有効であったと考える。

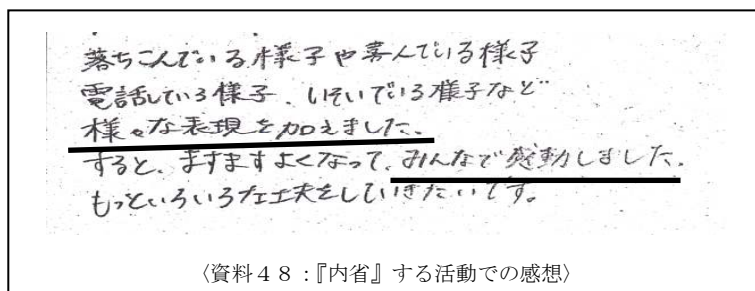


Ⅷ 研究のまとめ

1 成果

(1) **2時間ひとくりとした単元構成に3段階の活動構成**を重ねることで、テーマに沿った自分の動きを何度も振り返ることができ、みる人に伝わりやすいように、より表したいイメージで表現できた。また、受け取ったイメージを自分のイメージとして言葉で「発信」し、グループの「交流」から表したイメージと動きをつなげることを繰り返しながら、タイトルに沿った表現を広げ、深めて表現する生徒を育てることができた。さらに、「**内省**」する活動を通して、感情を動きの中に組み込もうとすることができた。

(2) 「**基本**」の段階、「**共感**」の段階、「**発展**」の段階の3段階の活動構成を工夫することによって、自分の動きを振り返り、「**内省**」する活動を導き、グループで動きを高め合いながら、表現を広げ、深めて踊る生徒を育てることができた。



〈資料48：『内省』する活動での感想〉

以上のことから**2時間ひとくりとした単元構成と3段階の活動構成**の工夫を行い、「**内省**」する活動を中心とした言語活動を引き出すことで、表現を広げ、深めて踊る生徒を育てることができた。

2 課題

- (1) 創作ダンスの学習経験の少ない生徒にとっては、より具体的なイメージがつかみやすいテーマや題材を設定して、多様な表現が引き出せるように工夫する必要がある。
- (2) さらに表現を深めるためには、感情などの自己の内面を引き出す具体的な手立てが必要である。

【引用・参考文献】

| | | |
|--|----------|------|
| 「高等学校学習指導要領解説 体育編」 | 文部科学省 | 2008 |
| 「マイネル スポーツ運動学」クルト・マイネル著 金子明友訳 | 大修館書店 | 1981 |
| 「学校体育用語辞典」松田岩男・宇土正彦編集 | 大修館書店 | 1988 |
| 「楽しい表現運動・ダンス」村田芳子編著 | 小学館 | 1998 |
| 「SPASS(シュパース)」中学校体育・スポーツ教育実践講座刊行会 | ニチブン | 1998 |
| 「高等学校体育の授業(下)」杉山重利・高橋健夫・園山和夫・細江文利・本村清人編集 | 大修館書店 | 2001 |
| 「運動・用語活用事典」小学校体育指導者研究会編 | 東洋館出版社 | 2003 |
| 「体育授業を観察評価する」高橋健夫編著 | 明和出版 | 2003 |
| 「やってみる ひろげる ふかめる」細江文利・池田延行・村田芳子他編著 | 光文書院 | 2009 |
| 「体育科教育2008 3月号」 | 大修館書店 | 2008 |
| 「体育科教育2009 11月号」 | 大修館書店 | 2009 |
| 「新版体育科教育学入門」高橋健夫・岡出美則・友添秀則・岩田靖編著 | 大修館書店 | 2010 |
| 「体育の年間指導計画 福岡プラン」 | 福岡県体育研究所 | 2010 |
| 「平成20年度 長期派遣研修員 研修報告書」 | 福岡県体育研究所 | 2009 |
| 「平成21年度 長期派遣研修員 研修報告書」 | 福岡県体育研究所 | 2010 |